

1 第4分科会 組織・運営に関する課題

2 大分県公立学校教頭会 副会長 植木 龍典

3 1. 提案主題

- 4 (1) 学校の組織力を高める教頭の役割～校内研究による授業改善から教育目標の具現化へ～
5 (2) 小規模校における学校活性化を目指した取組～地域や家庭、校種間の連携を通して～
6 (3) 学校小規模化に伴う課題を克服する取組～矢掛町における合同授業と合同学年部研修会
7 の推進における教頭の役割～

8 2. 研究の概要：教頭としてどのように係わっていくのか（役割）

- 9 (1) ① 整理・見える化から ② 生徒が主体となる指導観の活用から
10 ③ 発信と共有から ④ 教職員の力量向上から
11 (2) ① 地域や保護者と連携した事業の推進から ② 校種間連携の取組の推進から
12 (3) ① 合同授業から ② 合同学年部研修から

13 3. 成果と課題

- 14 (1) ① 暴力行為や触法行為が激減し、授業エスケープもほぼ見られなくなった。
15 ② 「学校の雰囲気は良く、集団としての活動や取り組みは積極的である」の肯定的回答
16 が上昇した。
17 ③ 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができ
18 ている」の肯定的回答が上昇した。
19 ④ すべての教育活動が、生徒にとって目標を持ち意欲的に取組めるものになるには。
20 ⑤ 教職員が誇りや情熱を持ち続け、健康で充実して働けるようにするためには。また、
21 学校が担うべき業務を大胆に見直し、働き方改革を推進するためにはどうすべきか。
22 (2) ① 地域の方々との様々な体験交流活動は、地元の魅力の再発見や地域コミュニティーづ
23 くりにもつながり、子供たちの地域への愛着が深まった。
24 ② 中学校校区での学校運営協議会の設置により、地域の方々との交流が進んだ。
25 ③ CS のしくみやねらいの、教職員や地域、保護者への浸透と児童数が減収していく中
26 での取組の継続と学校活性化をどのようにすればよいか。
27 ④ 継続的、組織的な連携とするため、教頭のマネジメント力をさらに向上させるために
28 はどのようにすればよいか。
29 (3) ① 仲間意識が醸成され、コミュニケーション力も向上し、中学校へ進学してからスムー
30 ズに中学校生活に入れるようになった。
31 ② 合同学年部研修会が、互いが学び合い優れた取組を共有する人材育成の場として発
32 展していった。
33 ③ 教職員の働き方改革が進む中で、担任の負担を軽減するためには、どうすればよいか。

34 4. 指導助言

- 35 (1) 取組が10年以上の長きにわたって行われていることが、非常に素晴らしい。
36 (2) 児童・生徒の体験交流活動は、長きにわたって記憶に残り、後に地域の財産となる。
37 (3) 合理化が進む中、統廃合せず、教育に対する町の住民の思いが良い成果を収めている。